

第1回

秋川高校跡地及び秋川高校跡地 周辺地区のまちづくりに向けた 有識者会議

令和5年10月19日（木）

次第

1. 委員挨拶

2. 本会議の目的

3. あきる野市の概況

4. 意見交換

1. 委員挨拶

本会議には、以下の5名の委員の方々にご出席いただきます。

氏名	所属	職位
饗庭 伸	東京都立大学都市環境学部	教授
朝日 ちさと	東京都立大学都市環境学部	教授
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授
下村 彰男	國學院大學観光まちづくり学部	教授
古屋 秀樹	東洋大学国際観光学部	教授

2. 本会議の目的

秋川高校跡地及び秋川高校跡地周辺地区におけるまちづくりのビジョンを策定するに当たり、地域特性や都市をめぐる環境の現状及び変化等を踏まえ、市が検討しているまちづくりの方向性について、専門家である学識経験者から意見を頂くことを目的として有識者会議を設置した。

[会議の流れ]

第1回 (10/19)

- ・ 現況整理
- ・ 今後の検討に向けて

第2回 (11/20(仮))

- ・ まちづくりの方向性
- ・ 手法の検討

第3回 (1月中旬)

- ・ ビジョン(案)の検討

第4回 (2月中旬)

- ・ ビジョン(提言)

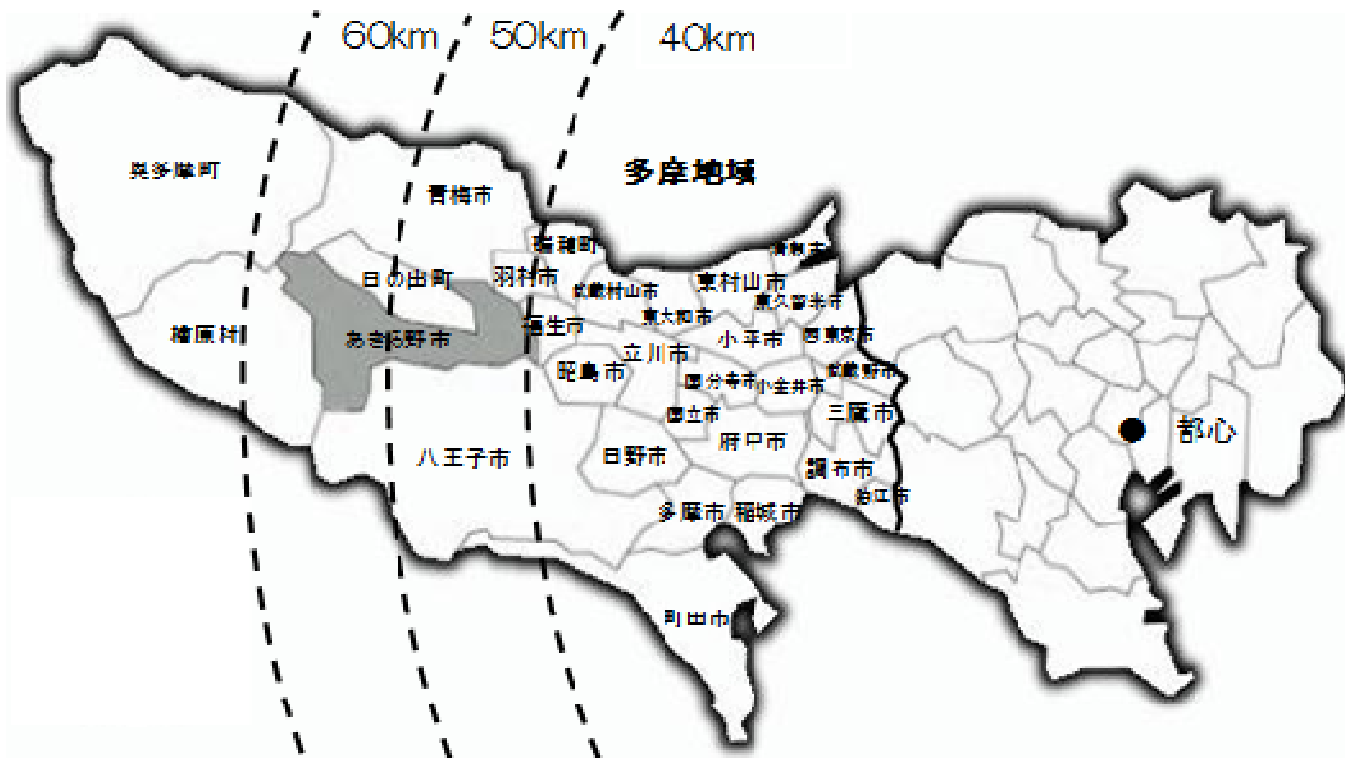
ビジョン策定 (あきる野市)

3. あきる野市の概況

(1) あきる野市の位置と地勢

1 位置

都心からおよそ40~60km圏の多摩西部に位置し、東は多摩川を隔てて福生市、羽村市、西は檜原村、南は八王子市、北は日の出町、青梅市、奥多摩町に隣接している。行政区域は、東西18.0km、南北12.7kmに及び、面積は73.47 km²と、都内26市の中で3番目の規模となっている。

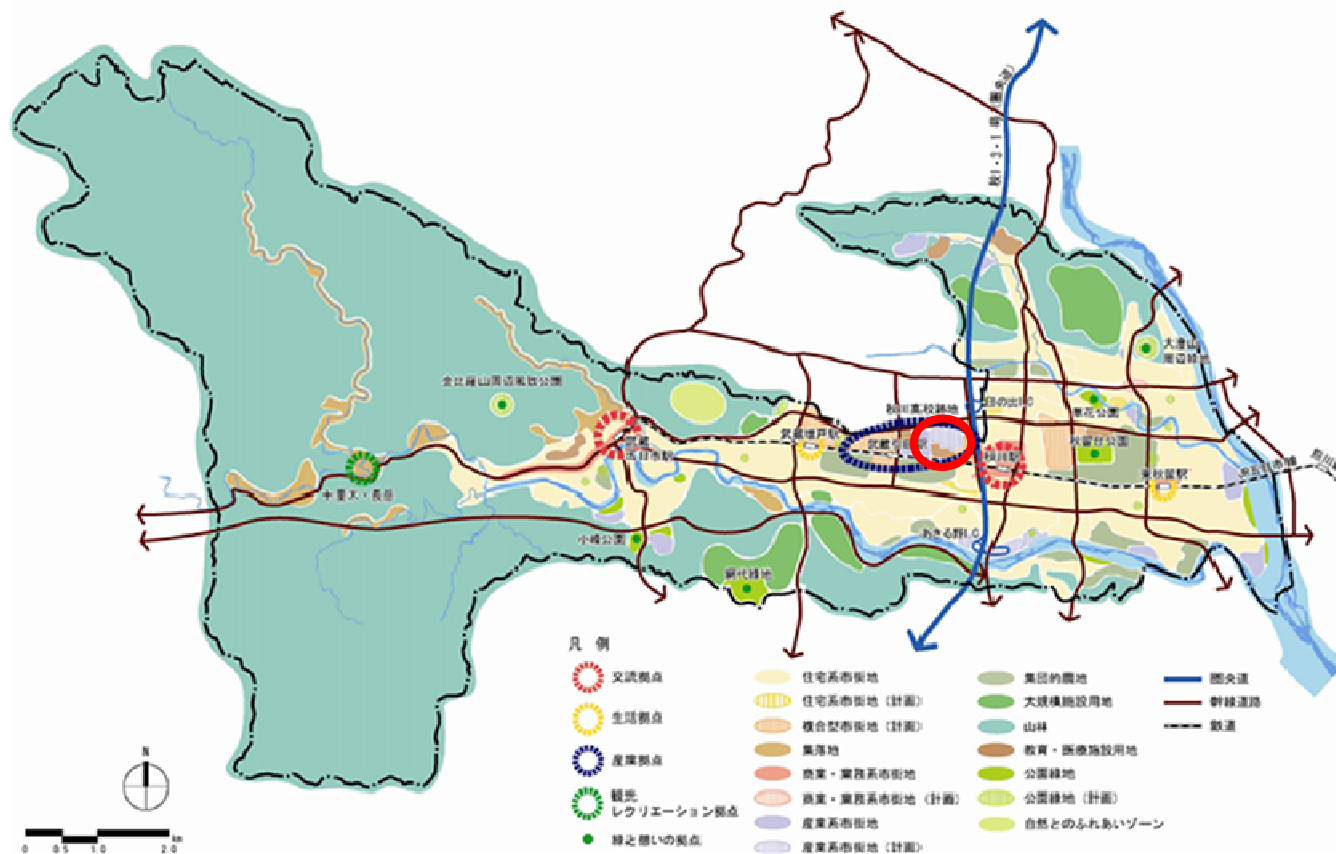


3. あきる野市の概況

2 地勢

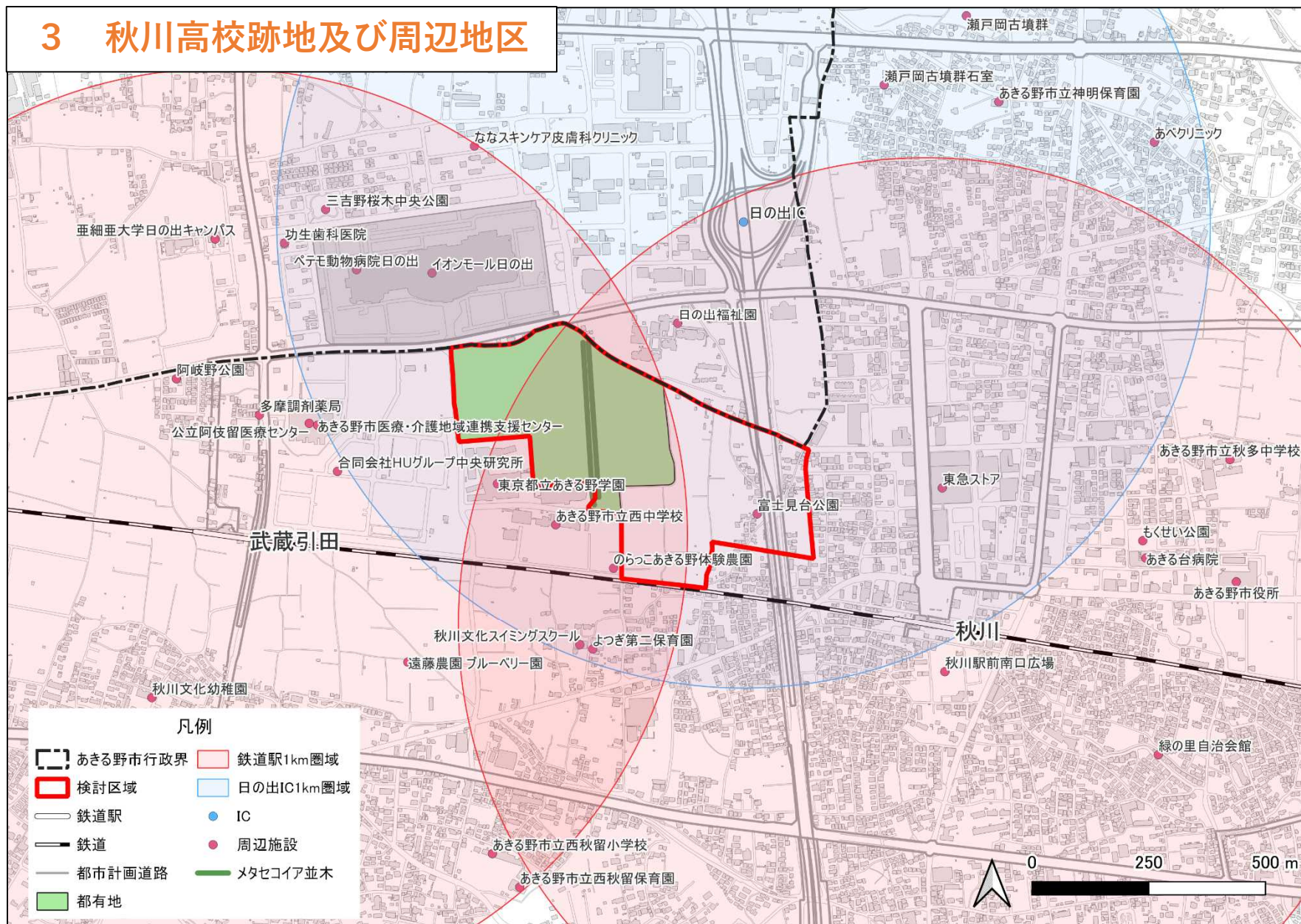
市域の特性として、秋川丘陵、草花丘陵に囲まれた平坦部（秋留台地）と奥多摩の山々に連なる山間部が広がるなど、自然環境に恵まれた市街地が形成されている。

市の中央を東西にJR五日市線が走り、南北に首都圏連絡自動車道（圏央道）が整備されるなど、台地部を中心に市街地を形成している。



3. あきる野市の概況

3 秋川高校跡地及び周辺地区



3. あきる野市の概況

(2) 上位計画及び関連計画の位置付け

上位計画

あきる野市
総合計画（創生戦略）

東京都
都市計画区域の整備、
開発及び保全の方針（区域マス）

あきる野市都市計画マスタープラン

秋川高校跡地及び周辺のまちづくり

関連計画

- あきる野市農業振興計画
- あきる野市観光推進プラン
- 生物多様性あきる野戦略
- あきる野市商工業振興プラン
- 第2次あきる野市環境基本計画
- あきる野市DX推進方針
- など

3. あきる野市の概況

(3) 東京都の計画（区域マス）による当該地の位置付け

【区域マスにおける位置づけ】



多摩広域拠点域

〔秋留台台地部〕

- 秋留台の台地部、丘陵地や里山、秋川などが形づくる自然地形が保全されつつ、地域農業と連携した新たな産業の立地や、地域の利便性を高める広域的な商業交流機能やサービス機能の整備などにより、活力ある地域を形成
- 計画的な市街地整備により、農地やみどりなど自然環境と調和したゆとりある住宅地を形成

〔遠野喜場・豊原・早道場地区〕

- ・市街地整備の見通しが明らかになった段階で、農林業との十分な調整を行い、市街化調整区域から市街化区域に編入し、周辺市街地との調和を図り計画的に市街地を形成

3. あきる野市の概況

(4) 市の総合計画による位置付け

都市整備分野

■計画的な土地利用の推進

圏央道インターチェンジ周辺地区の土地利用転換の推進

初雁地区や秋川高校跡地など、圏央道あきる野インターチェンジ及び日の出インターチェンジ周辺地区については、地域の特性に応じた適正な土地利用転換を推進する。

産業振興分野

■産業振興の推進

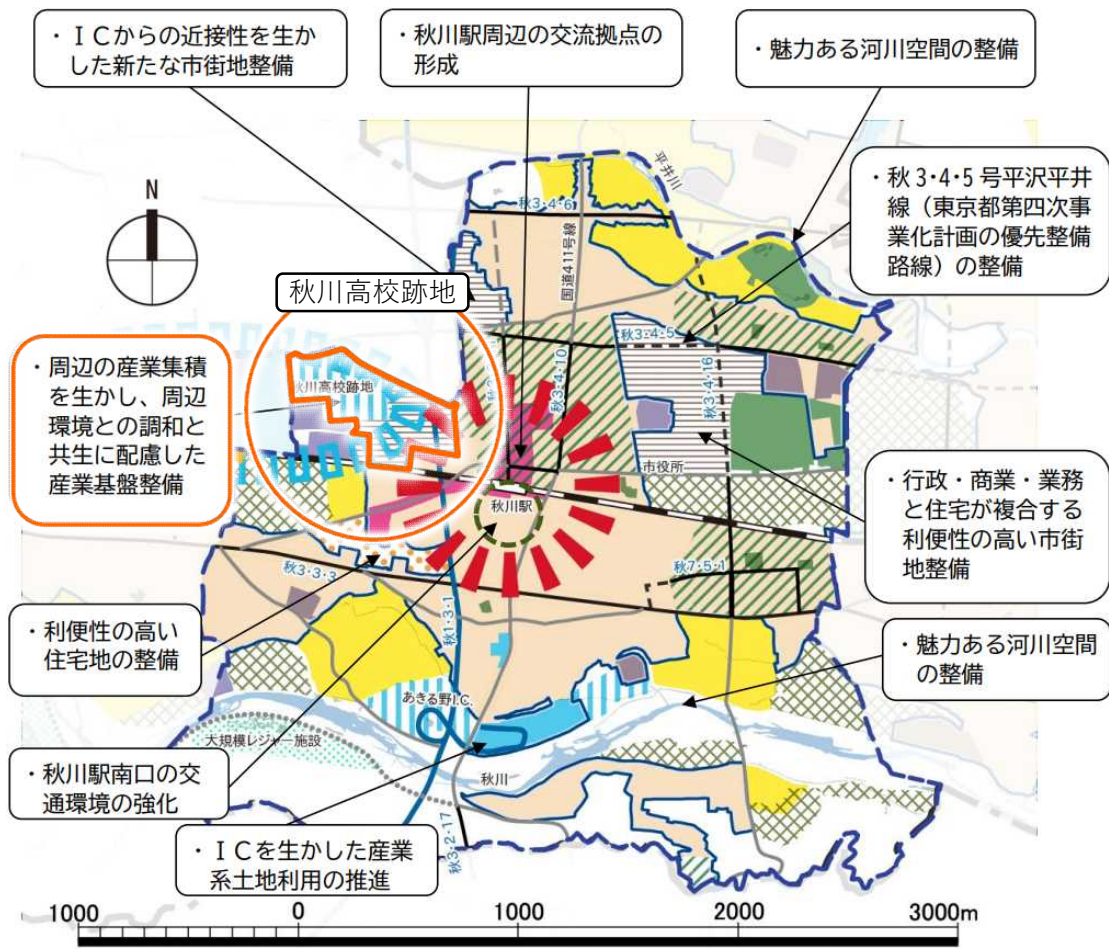
計画的な企業立地の推進

周辺市街地との調和や自然環境の保全に配慮しながら、地域産業に適した立地環境の整備と併せて、企業立地を推進する。また、立地環境に優れた武蔵引田駅周辺地区や秋川高校跡地では、産業系複合市街地のまちづくりの特性に合わせて企業立地を進める。

3. あきる野市の概況

(4) 市の計画（都市マス）による当該地の位置付け

【秋川地域まちづくり方針図】



出典：都市計画マスタープラン

3. あきる野市の概況

(4) 市の都市マスの方針

全体まちづくり方針

■土地利用の方針

・産業系市街地

秋川高校跡地周辺は、本市の中核的な産業拠点及び多摩広域拠点として、産業集積やIT関連、研究開発、物流関連施設などのほか、AI技術やSDGs（持続可能な開発目標）をはじめ、環境負荷の低減に資する新たな産業集積も視野に入れながら、産業基盤の整備を進める。

・複合市街地

豊原、早道場地区は、圏央道や秋川高校跡地に近接している立地条件を生かし、隣接する地区の土地利用と連携した産業系複合市街地の形成を進める。

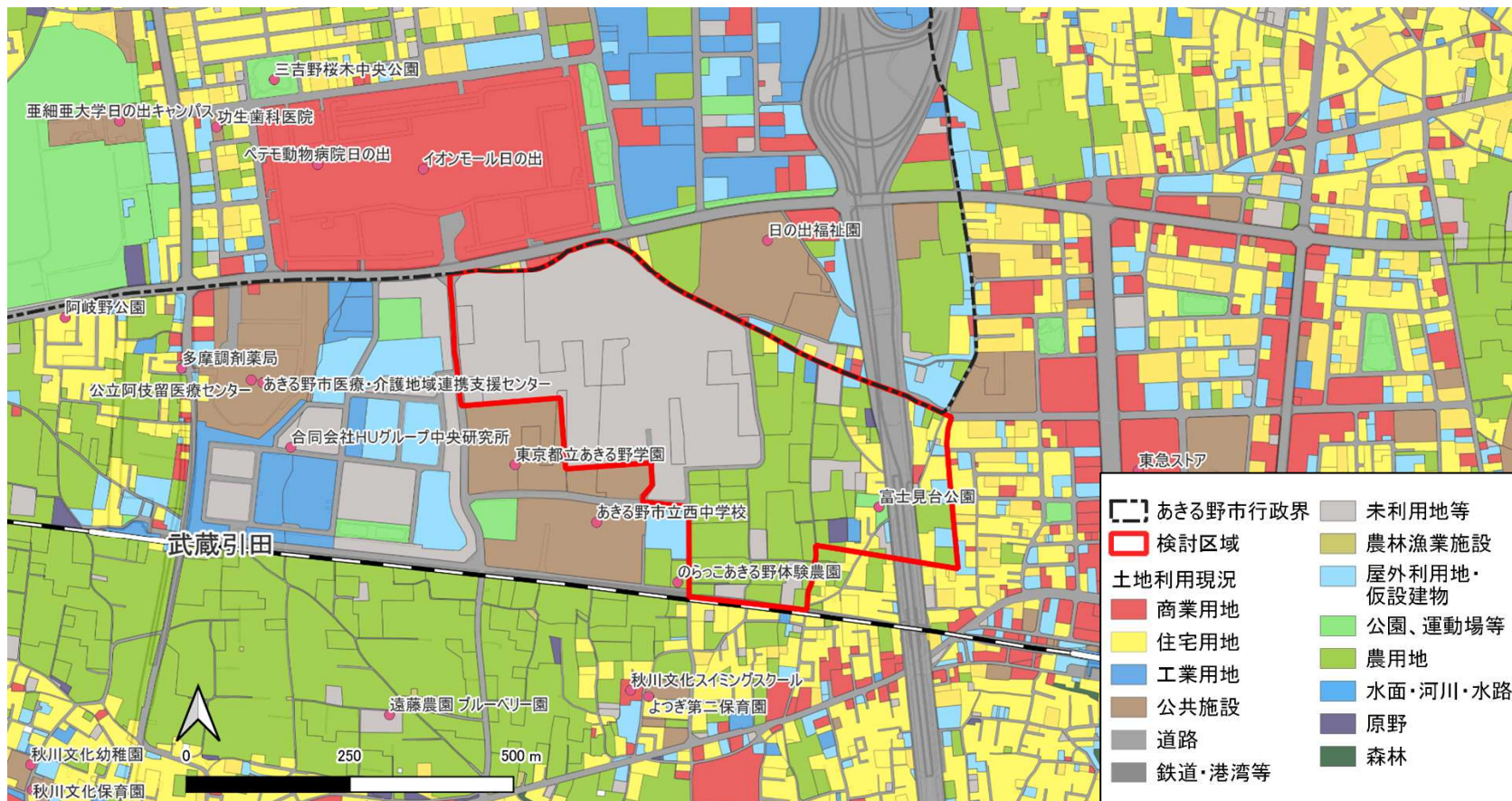
地域別まちづくり方針

秋川高校跡地及び豊原・早道場地区は、既存の企業や農業など地区特性との連携の可能性を検討しながら、次世代型の新たな産業を視野に入れ、周辺環境との調和と共生に配慮した産業の誘致を図るとともに、良好な複合市街地の形成に向けた基盤整備を促進する。

3. あきる野市の概況

(5) 土地利用現況

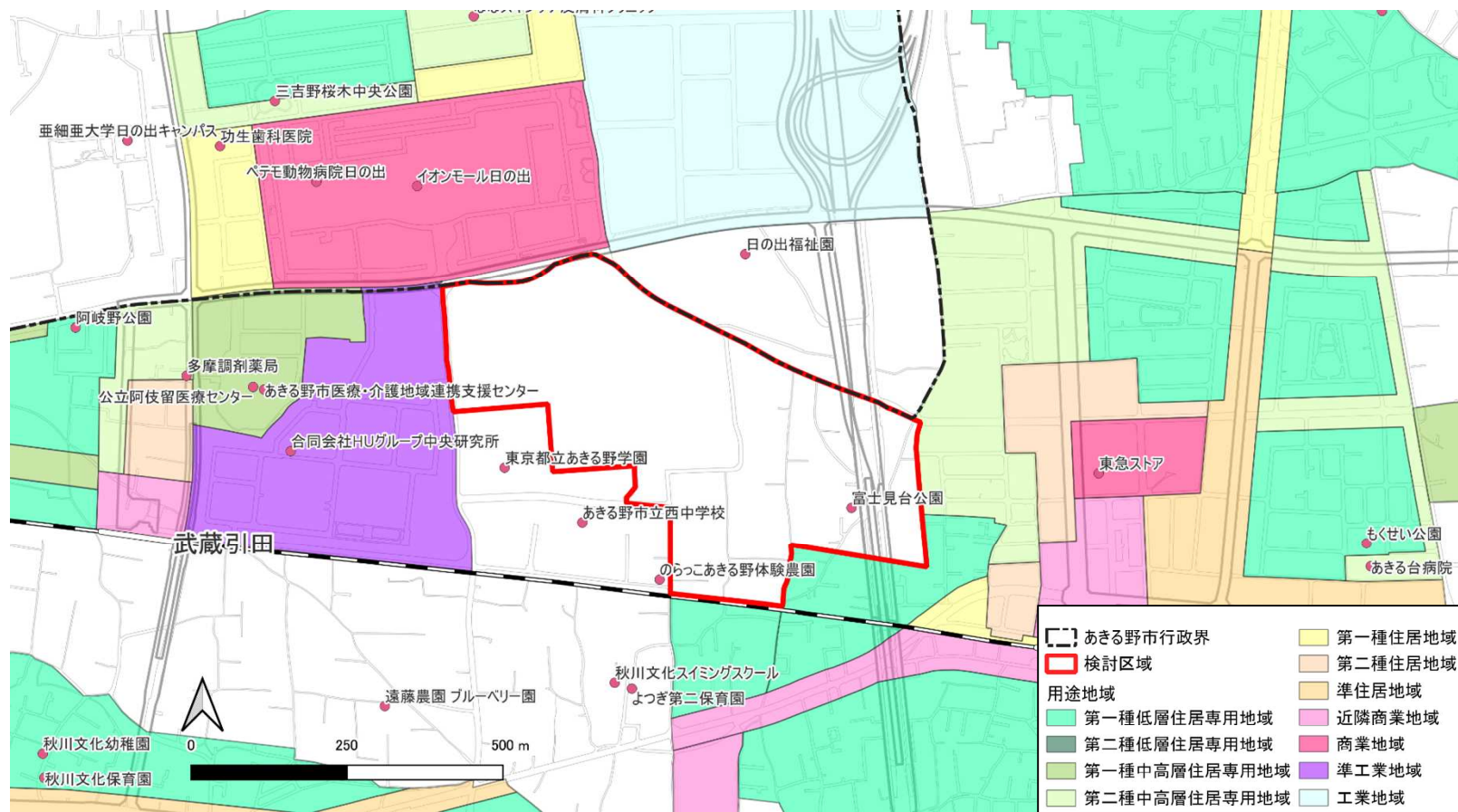
検討区域の東側、南側は農地や住宅地が形成し、西側は教育、医療、福祉施設が立地している。北側日の出町は、大型商業施設や工業団地を形成している。



3. あきる野市の概況

(6) 土地利用の誘導

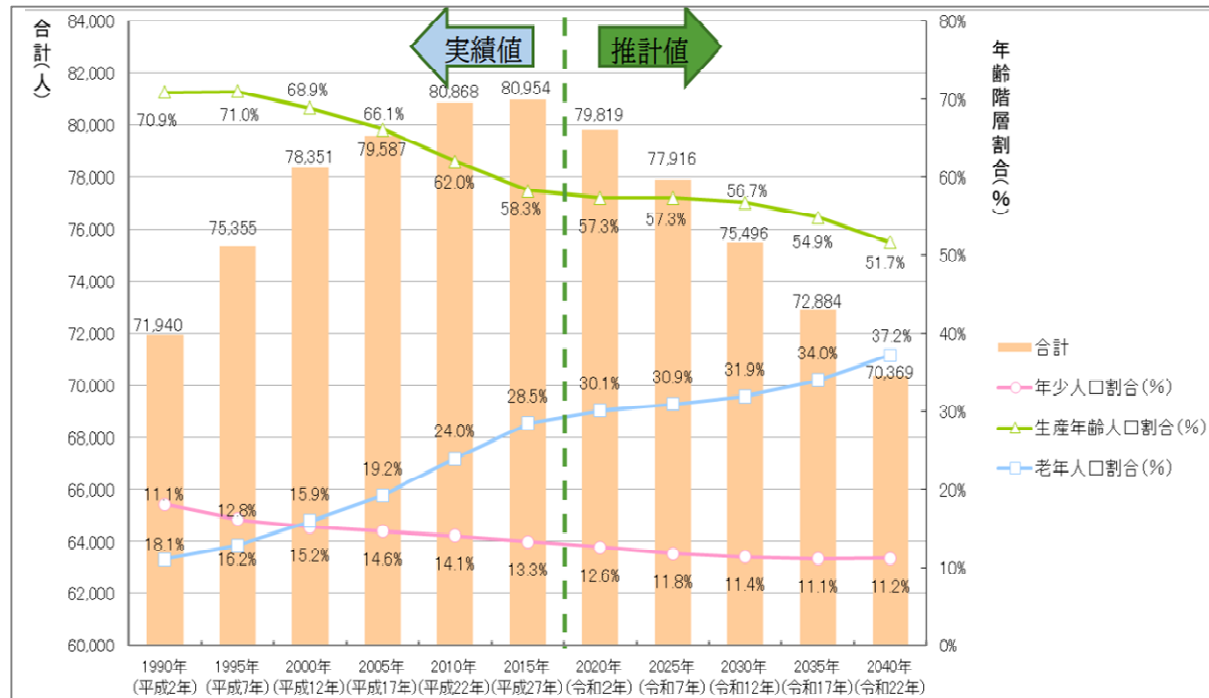
検討区域及びその周辺は市街化調整区域であり、用途地域は無指定であるが、教育・福祉施設の福祉施設の土地利用が図られている。さらにその周辺地域については、複合市街地としての用途地域が指定され適切な土地利用の誘導が図られている。



(1) 人口動態

総人口は2015年をピークに減少に転じ、今後は生産年齢人口が減少する一方で、老年人口は、2040年まで増加し、超高齢化社会が到来する。

【人口、年少人口・生産年齢人口・老年人口の推移と予測】



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」、国勢調査

(2) 産業動態

1) 事業所数売上高

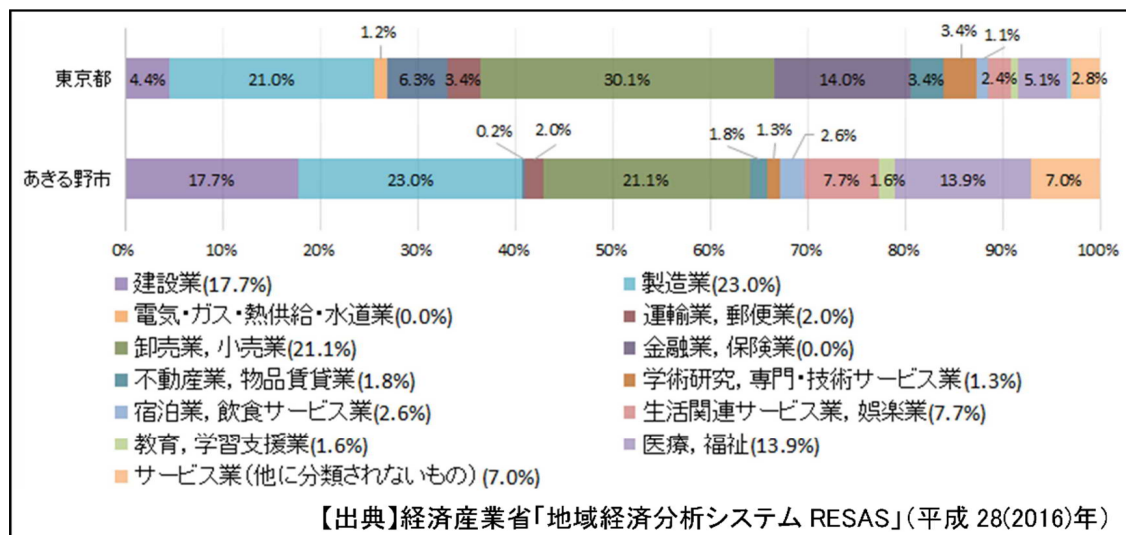
産業大分類別の事業所数は、「卸売業、小売業」に続き「建設業」「宿泊業、飲食サービス業」「製造業」により、市内事業所件数の約63%を占めている。

一方、売上高は、「製造業」「卸売業、小売業」「建設業」で約61%を占め、東京都全体での比較では「建設業」「医療、福祉」の売上高の占める割合が大きい。

【市内事業所件数】 (上位10産業)

産業分類	事業所数
卸売業、小売業	569
建設業	378
宿泊業、飲食サービス業	257
製造業	226
生活関連サービス業、 娯楽業	216
医療、福祉	210
サービス業 (他に分類されないもの)	135
不動産業、物品賃貸業	96
学術研究、専門・技術 サービス業	88
教育、学習支援業	70

【売上高 (企業単位) の構成比】



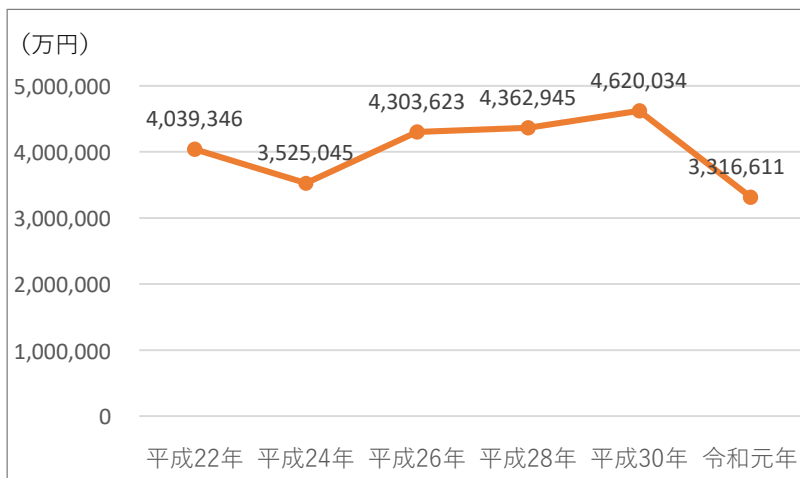
(2) 産業動態

2) 出荷額・販売額の推移

製造品出荷額※について、平成24年を除き増加傾向にあったが、令和元年に大幅に減少している。

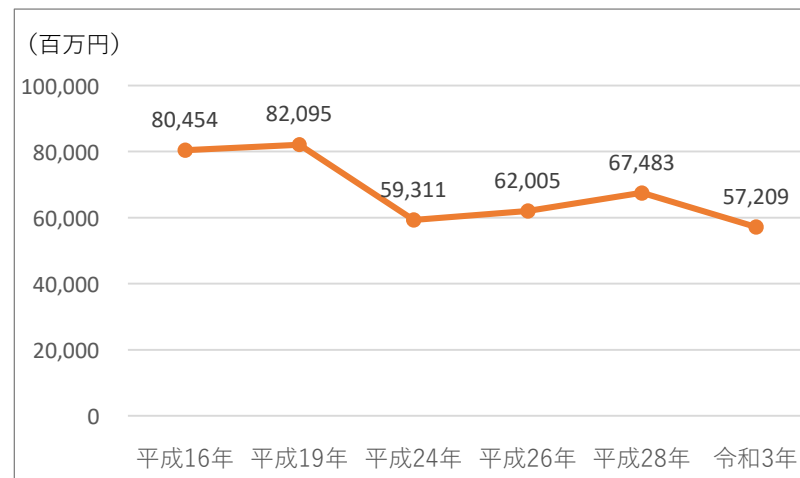
年間商品販売額※について、平成24年以降についてはほぼ横ばいに推移している。

【製造品出荷額の推移】



※製造品出荷額…第二次産業（鉱業、建設業を除く）に該当する製造品の出荷額

【年間商品販売額の推移】



※年間商品販売額…商業（卸売業・小売業）における年間の販売額

出典：経済産業省「商業統計調査」
総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

(2) 産業動態

3) 地域経済循環

地域経済について、地域における約3,843億円の所得のうち、約25%に当たる965億円が市外へ流出している。地域経済の自立度を測る地域経済循環率※は、74.9%となっており、近隣自治体と比較して低くなっている。（全国中央値は75.0%）

【近隣自治体の地域経済循環（単位：億円）（平成28年度）】

自治体名	生産(付加価値額)	分配(所得)	支出	地域経済循環率
あきる野市	2,878	3,843	2,878	74.9%
青梅市	5,378	6,955	5,378	77.3%
羽村市	6,655	3,999	6,655	166.4%
福生市	1,929	2,971	1,929	64.9%
瑞穂町	8,841	3,133	8,841	282.2%
日の出町	832	897	832	92.8%

【出典】経済産業省「地域経済分析システム RESAS」

※地域経済循環は、生産（付加価値額）÷分配（所得）により算出される

(2) 産業動態

3) 地域経済循環

【あきる野市の地域経済循環図（単位：億円）（平成28年度）】

